むすび塾

個人情報保護 大きな壁

住民の安否確認

巡回ワークショップ　@宮城県七ヶ浜町花渕浜地区

河北新報社は3月31日、巡回ワークショップ「むすび塾」を宮城県七ヶ浜町花渕浜の同性寺で開いた。花渕浜地区の自主防災会は震災で役員の多くが被災し、活動拠点だった地区公民館も流失した。メンバー59人が、住民の安否確認や物資の配布に奔走した当時を振り返り、個人情報保護が安否確認の壁になっている現状を指摘した。

震災で花渕浜地区は想定のほぼ真の約6割の津波に襲われ、住民142人のうち、9人が亡くなった。津波による住宅被害は438世帯のほぼ半数に上った。

自主防災会は混乱の中、津波を免れた住民の家に本部を置いた。安否確認と支援物資の配布、水の調達などの分担を決め、行動を始めた。物資は世帯ごとに袋詰めし、均等に配ることを心掛けた。「訓練を超えた大災害。毎日、毎日、何を最優先にするべきかを考えていた」と役員の一人は振り返る。

東日本大震災で津波被害を受けた同性寺で、自主防災会のメンバーら住民9人が、被災経験を今後の備えに生かす方法などを話し合った

自主防災会の西村陽一会長（64）は進口、町役場に通った。給水所や通行可能な道路など、得た情報は全て住民間で共有できるようフェンスに張り出した。

安否確認では機能した。個人情報保護の関係で、自主防災会で最新の住民名簿を持っていなかった。西村さんは「今後災害が起き、住民の安否を確かめようとしても、個人情報保護が障害になってしまう」と不満を漏らした。

想定しなかった問題にも直面した。震災の数日後から地域で不審車が目撃され、自主防災会は「不審者の捜索を防げ、盗難など犯罪を引き起こす恐れがある」と判断。地区入り口の三差路で警戒に当たった。

メンバーは「道路を封鎖する権限はないが、警察はすぐに来てくれない。どこまでやるか、迷いもあった」と明かした。

自主防災会は2003年ごろに設立された「いつどこでも命を永らえるために」と、高台12カ所を「一時（いっとき）避難場所」に定め、毎年の訓練には全世帯の7割が参加した。震災の津波は一時避難場所3カ所に到達したが、付近の住民はあらかじめ別の場所に逃げて無事だった。

自主防災会のアドバイザーで、七ケ浜町に住む宮城教育大学院大教授（自然地理学）は「さまざまな備えを通して、住民は一時避難場所の標高など地域をよく知っていた。その積み重ねが想定外の事態でも適切な行動を生んだ」と評した。

花渕浜地区は今も復興の途上にある。ワークショップを進行した被災・復興支援機構（東京）の木村拓郎理事長は「防災のための取り組みを続けるために、花渕浜への愛着を次世代の中にも育み、大人が何を大事にしているかを伝え続けてほしい」と呼び掛けた。

東北学院大教授（自然地理学）
宮城　豊彦さん

「話し合い」が判断後押し

花渕浜地区の自主防災会は、自分たちで命を守ることを第一に、防災意識を高めてきた。地縁、血縁が機能し、地域として自立している。想定外の大津波に対しても適切に対応できた理由だ。

災害で命を守るために備えとして大事なのは、課題が見つかったら議論して答えを出しておくことだ。決めたルールはみんなで守る。花渕浜はそれができていた。

防災マップを作ったとしても、震災が想定通りに起きるわけではない。まして作って満足しただけで忘れてしまっては、実際に役に立たない。花渕浜の住民はマップ作りを通して、地域の避難方法を考え、話し合った。そのことが、とっさの判断と行動につながった。

地域を知らないと防災は機能しない。都市部ではそもそも地域を知らない住民も多く、防災組織づくりも簡単ではないかもしれない。他の地域も震災で集まったデータや経験を生かし、地域を知ることから備えを始めるといいだろう。

■むすび塾に参加して

―― 宮城・七ヶ浜町花渕浜地区

【役立った活動】訓練や防災マップの作成などを通じて住民が地形を把握した。各自の判断で安全に避難し、指定の避難場所で犠牲を出さずに済んだ。
＝自主防災会会長・西村陽一さん（64）

【今後の課題】寺が運営する幼稚園の子どもたちの安全確保。震災後、日中の大津波を想定し、住民とも協力して園児の避難訓練をした。いろんな状況を考え、万一に備えた。
＝住職・渡辺道さん（55）

【今後の課題】防災会として、無線機、乾電池などを備えていなかった。基本的な物品はもちろんだが、季節や発生時間帯を考えた備品の準備も必要かもしれない。
＝会社員・相沢雄一さん（47）

【今後の課題】要援護者の名簿を作りたい。本人や家族の了解を得ないといけない。実際にちゃやって避難させるかを考えておくことも重要だ。
＝民生児童委員・遠藤敬一さん（64）

【震災時の活動】防災会が自主避難者の支援物資をまとめて受け取り、各戸に均等に配給した。拡声器で配布時間を告げ、高齢者には届けて回った。
＝自営業・遠藤欣弥さん（53）